

項	育てたい 子供の姿	重点目標 (努力目 標)	具体的な取組	取組状況・成果・課題	自己 評価 (4点満点)	学校関係者からいただいた 評価・意見等	改善策 下線は、左欄(学校関係者からいただいた 評価・意見等)を踏まえての改善策
心豊かに たくましく生きる 神戸の子供を育む	かんがえる子 のびのびあか るい子 こっこつが んばる子	自分で考 え行 動で きる 子	授業改善	授業改善の視点として、授業の冒頭では本時のめあてを児童と共有し、終末では本時の学びを振り返ることを意識している。教師主導の授業形態の脱却を目指し、児童が主体的に学びを進められるよう、職員研修の中では対話的な学びのあり方についての検討を重ねている。今年度は国語科の中でも「書く力」の育成を目指して授業研究を進めており、兵教大の勝見教授の指導助言をいただきながら、さらなる授業改善を進めている。今後も児童の主体的に学習に臨む態度を育成するために、目的や意図を明確にした単元計画を立てていく。	3.0	・授業の始めに子供たちにめあてを伝え、終わりに振り返りを実施している。口頭だけでなく、黒板に書いて常に意識付けがてきている。 ・めあてを子供たち全員に復唱させていたのは、意識させる上では効果的だと感じた。 ・授業参観をして、「書く力」をつける場面を、授業に組み入れていると感じた。 ・タブレットを使用するのは時代の流れと分かっているが、計算力や漢字の読み書きの力は低下しないのか？気になる。 ・「書く力・語彙力の向上」はすべての教科の基本であり、それらを強化することはとても大切だと思っている。 ・かけ算九九を定着させることはその先の算数・数学の理解に直結するのでとても大切だと感じた。	・めあて→ふりかえりの考え方は概ね定着してきた。今後は、いかにして、児童の学習意欲を喚起させるようなめあてを設定できるか、振り返りを次時の学習意欲にどのようににつなげるか、などについても検討していく。 ・児童が「書きたい」と思うような題材の検討や、読み手や目的などの条件に応じてどのように書くことが必要かを児童自身が考える場の設定など、さらなる授業改善の視点を取り入れながら進めていく。 ・学習の基礎基本をすべての児童に定着させるには、学習支援員の活用や放課後学習の導入なども、今後は視野に入れて検討を進めていく。 ・タブレットの活用を進めることは今後必要だが、それが目的化しないように留意する。 ・新たに配置される学校図書館司書の活用を進めていく。
			読書の推進	児童のアンケート結果からは、1ヶ月に1冊も本を読まないという読書離れの傾向が浮き彫りになった。今後も読書センターとしての図書館活用を推進させつつ、国語の授業の単元計画に並行読書を位置付けるなど、情報センターとしての図書館活用も進め、児童の読書量アップを目指していく。	3.0		
			学習のきまりの共有	授業中の正しい姿勢や持ち物のルール、発表の仕方や話の聞き方など、学習の基本的な約束を設けているが、現状では学級によって約束の徹底には若干の差がある。今後は、発達段階に応じて約束事の意味を改めて考えさせたりし、全校で守れる約束になるよう児童にも納得のいくルールに改善していく。	2.6	・「発達に応じて」は理想的だが、教員一人では、難しい学級も現実的にはあると思う。 ・落ち着かない子を放置せず、授業に向けさせる努力が見られる。	・今後も時代の変化に応じて、学校のきまりを見直し、更新させるようにする。特に、児童や保護者も交えて、内容の見直すことも取り入れていく。
		自分・友 達に す る 学 校・ 地 域 を	語彙を豊かにする	話し方・聞き方指導の中で、自分の意見や考えを相手に伝えるためには、どのような言葉を使うとよいかを、学年に応じて指導している。また、授業では、教科に応じた学習用語を教師自身が使うよう意識している。それらの学習用語は、単元の学習に合わせて教室掲示するなどし、児童の語彙の一部となるように工夫している。今後は、読書経験を積み重ねることにより、様々な言葉に触れ合う機会を増やし、語彙の獲得にもつなげたい。	2.8		・自分の感想や考えを表現するのにびびったりの言葉が浮かばない場面では、新しい語彙について意識を向けるチャンスと捉え、語彙指導を取り入れていく。また、すべての教科または特活等でも活用できる話し方指導、書き方指導は、年間を通して意識的に行っていく。学校として発達段階を考慮した系統的な指導計画があればよいと考ええる。
			あいさつの推進	一年を通して教職員やプログラム委員会児童が校門でのあいさつ運動を継続し、声を発して相手にあいさつをしたり、気持ちの良いあいさつをされたりする実体験を積み重ねたことで、人とながなる心地よさを実感させることができた。プログラム委員会児童によるあいさつ啓発動画は児童の心に訴える内容で、あいさつの輪を広げるのに有効であった。	2.5	・知らない人には声をかけづらい時代ではあるが、一旦どこかで顔見知りになると、非常に親しくあいさつをしたり話しかけてくれる子がいる。 ・登校時の見守りでの朝の挨拶は、8割以上できている。校門でのあいさつ運動は効果があると思われる。 ・プログラム委員会は学校のリーダー的存在。時々活躍の場を作っておきたい。	・今年度のあいさつ運動の取組は、非常に効果的であった。特にプログラム委員会の動画が児童の心に刺さった実感がある。来年度も継続してあいさつ運動を推進していく。高学年の活躍を期待する。
			自己肯定感を高める	普段から、学級あるいは学年の子供たちの様子を注意深く見守り、学校生活の中で気付いた小さな成長やがんばりに、前向きな言葉をかけることができるよう、学年打ち合わせ等で児童の情報を共有している。学級活動においても、互いの良さを認め合う活動を組むなどして、学級の友達に認められているという実感がもてるよう配慮している。	3.2	・子供たちがお互いに「すごいね」「上手だね」という言葉を言っているのを聞く、大人が褒めているのを聞いているからではないかと思う。 ・学習成果などが多く掲示されており、児童の学習意欲を高めるのに効果的だと思うが、それが一部の児童に限られないように配慮が必要だと感じた。	・お互い、そのほかのよい大切な存在として認め合う。学級・学年経営の実現を目指し、子供たちの学校生活を全教員で見守っていく。遊びや学習の中で、相手を大切にす言葉の指導、誰にでも分け隔てなく接する態度の育成などに、注力する。 ・教員自身の言葉が児童にとってよい言語環境の一部となるよう、意識を高くつちきよめる。
		やり 遂 げ る 体 力 の あ る 子	学習の見通しの共有	学習単元のゴールを子供と共有し、何ができるように学習を進めればよいかを意識させながら授業を行うことや、毎時間の授業の中でも学習のめあてを明確にして授業を進めることなどを、学校全体で重点取組としている。また、その取組状況を学年ごとに月末に振り返り、翌月の授業改善に生かすようにしている。	3.2		・児童の主体的な学習態度の育成を目指し、今後も単元の学習の見通しを教員と児童で共有することは意識していく。単にゴールを示すのではなく、大きなめあてに向かって進むイメージを児童と共有するようにしていく。
			なわとび体操	寒さで室内にこもりがちな冬季に、朝の時間帯を利用して「なわとび体操」を実施している。低学年と高学年で実施日を分け、それぞれの発達段階に応じた難度の検定級を設け、児童が意欲的に取り組めるようにしている。休み時間にも検定級合格を目指して自主練習ができるような場を設けている。	3.4	・校外でもなわとびの級について子供たちが話しているのを聞く。家でも熱心に練習しているを見る。よい取組だと思う。 ・休み時間も運動場に出て楽しそうになわとびをしている。なわとび検定級合格の目的をもって取り組んでいるのが良い。 ・なわとび体操を全学年にさらに興味を持たせてほしい。 ・運動場でなわとびは冬の風物詩。休み時間にも音楽と歓声が聞こえてくる。自主的に器具を管理しながら練習に励んでいる。運動が「苦手」で昇級が進まない子どもへの配慮はぜひお願いしたい。 ・休み時間に他の学年の子と遊んでいるのを見かける。「校庭で仲良くなった」という話も聞いて、ほほえましく思う。 ・工夫を希望する。	・冬季のなわとび体操は、児童の体力向上、外遊びの奨励の両方で大いに効果があった。今後も本校の特色ある教育活動として、位置付けていく。がんばりカードについては、学年をまたいで達成できた級が引き継がれるような工夫があってもよいかもしれない。取組がマンネリ化しないよう、改善点を踏まえた上で継続する。
			外遊びの推進	本校の時は、全ての休み時間を10分以上とっているため、運動場で外遊びができる機会が多い。業間の長い休み時間には、学級でも全員遊びをする計画を立てたり、担任が学級の児童を運動場に連れ出して遊んだりする姿が多く見られる。冬場は凍結した運動場が解け出すと使用できなくなるため、運動量の確保には工夫が必要である。	3.2		・かのこタイムには、学級での全員遊び、異学年交流、特に1・6年生の交流が運動場で繰り広げられている。今後も、天候の良い日には運動場で遊ぶことを児童に働きかけていく。冬季のなわとび体操も外遊びの奨励につながる価値ある活動として継続していく。
	研修 目 標	人とつながり 学びを広げる 言葉の力をつける		今年度からは、言語能力の育成に焦点化し、カリキュラム・マネジメントを進めている。国語の授業で身に付ける力の広がりや、教科の内や外、日常生活にまで求めていることと取り組み始めたところである。特に、令和4・5年度は、「書く力」の育成に特化した職員研修を進めている。令和5年11月には本校で兵庫県小学校国語教育研究会を開催することが決まっており、その機会を一つの目標に据え、児童が「目的や意図に向けて、主体的に自分の考えを書く力」を付けていけるよう、大学教授の指導助言を仰ぎながら、授業研究を積み重ねている。	3.4	・ノートの書き方の良い事例を掲示板に掲示して、皆で共有できている。 ・高学年の子で登下校の見守り時に、「いつもありがとうございます」と言ってくれる子が時々いて、うれしく思う。	・昨年度から始めた「書く力」を育成する研修の取組を今年度も継続する。1学期からの取組が、2学期、3学期へとつながり、1年間を通して児童の「書く力」が段階的に向上するよう、計画的に取り組んでいく。 ・ノート展覧会は、学習習慣の定着、めあて→ふりかえりのサイクルの習慣化、主体的な学習態度の育成、好事例として取り上げることによる自己肯定感の向上をねらい、今後も発展的に継続する。

安全・安心して学校を築き 地域と共に子供を支える	①いじめ防止基本方針に基づくいじめ防止対策に関する取組(いじめ問題対策委員会)	常日頃から学級内の児童の様子について、学年内で情報共有を図り、その情報を持ち寄って月1回校内いじめ問題対策委員会を開催している。会議にはSCやSSWも参加し、情報共有だけでなく、いじめ問題への初期対応などについて、それぞれの立場から意見や考えを出し合っており、話し合うようにしている。	3.8		・月一回定例会の会議をもち、学校全体で情報共有を図る取り組みは、来年度も継続させる。来年度も、SCやSSWを講師に招いた生徒指導やいじめ問題、不登校対策等に対する研修を職員研修に位置付けていく。
	②業務改善	毎週火曜日をエコーデーとし、18:30施設、それ以外の曜日は、19:30施設を目標にしている。学期末や行事前の繁忙期以外は、退勤時刻を意識した働き方が少しずつ定着してきている。また、これまで学校から配布してきた学校・学年だより等の保護者宛の印刷物については、極力すぐーる発信またはホームページ掲載への切り替えを進めている。職員会議等の会議が勤務時間内に終わるよう、提案内容の精選等を意識している。	2.7	・「働き方改革」の時代にありながら、夜遅くまで校舎に明かりがついているのを見かける。やむを得ない事情もあると思うが、教員各々が自覚をもって時間管理することも必要。教員が疲れていては、子供たちを見守る目やかける言葉が疎かになることもある。業務改善は進めていただきたい。	・これまでの当たり前を見直し、業務の断捨離を確実に進める。まずは、働きやすい職場の実現に向け、環境改善(物の断捨離)を進める。ついて会議の効率化、パソコンやタブレットのさらなる積極活用による業務時間の捻出等、業務改善委員会を中心に全職員で進めていく。
	③新型コロナウイルス感染症関連	教育委員会の方針に従って、基本的な感染対策を講じている。手洗いの励行や必要に応じたマスクの着脱、教室換気については、全職員が意識を高くもって取り組んでいる。各教室での朝の検温チェックは秋以降見合わせ、各家庭での朝の検温並びに健康チェックを徹底していただいている。	3.8	・一応マスクはしているものの、清潔とは言い難いマスクをしている子もいる。「ちゃんと手洗してる?」の問いには、こっそりNOの子もいるのが現状。	・朝の健康チェックカードの点検をなくし、担任の目視による健康チェックに戻した結果、家庭での健康観察が不十分のまま登校する事例が増えつつある。この点については、保護者への呼びかけを改めて強化していく。マスク着用についての方針変更については、長期間着用を義務付けられていたことによる心理的影響を踏まえ、ゆめやかに指導して
	④「すぐーる」の活用、ホームページにおける情報発信	学校から保護者宛の連絡を「すぐーる」で発信することが定着した。「すぐーる」発信の回数が増えることにより、緊急の連絡等がその他多くの情報に埋もれてしまう可能性が懸念される。今後はアンケート機能も十分に活用していきたい。学校行事や各学年の学校生活の様子は、できるだけタイムリーにHPに掲載するよう努力している。	3.6		・できるだけ紙による文書配布をやめ、「すぐーる」やホームページによる情報発信に切り替えていく。アンケート機能の活用により、学校にとっても保護者にとっても利便性が実感できるようにさらなる改善を進める。
	⑤登下校時の見守り活動(見守り隊・見守りサポーターなど)	PTAが主となって、保護者による登下校の見守り活動を当番制で実施している。また、校区の交通量の多い交差点で、毎朝、地域の「見守りサポーター」の方々に児童の交通安全を見守っていただいている。下校時には、防犯・交通安全の両面から児童の見守る眼がないことが課題である。	2.8	・見守り活動への地域住民の関心の低さはあるが、「かのこ見守りサポーター大募集のチラシ」作成、配布、回覧の結果、数名が参加してくれた。 ・何とか保護者にも意識付けをお願いしたい。地域と一緒に協力し、見守り安全をしてもらいたい。	・PTAの見守り活動では、地区による危険な場所や児童の校外生活にかかる気になる情報を提供していただいており、学校での指導に役立てている。今後も継続をお願いしたい。 ・ボランティアによる登校見守りのおかげで、大きな事故の発生は免れている。今後も機会あることに児童の見守りを、地域にお願いし続けていく。見守りサポーターの方への感謝の会等の取組も教育活動の一環に位置付けていきたい。
	⑥学校生活のルールや決まり(校則など)について	長年「学校のきまり」として引き継いできた校内・校外のくらしを支える決まり事があるが、内容の追加はあるも精選がされていなかったり、社会情勢に合わせた見直しが行われていなかったりするために、来年度に向けては見直しを本格的に進めなければならない。児童や地域とも見直しの過程を共有して進めていけるようにしたいと考えている。	2.6	・見直し、改善ありがとうございます。 ・8:15までに登校できていない児童がかなりいるので、家庭への再確認が必要なのではないか。 ・改定後は簡潔でよいが、「あそび」については具体的な説明をしっかりと、全員に認知させる必要を感じる。	・教職員、児童、保護者、地域など、多くの立場の目で見えて納得のできる、時代に合った「鹿の子小のきまり」に導いていけるよう、定期的な見直しを図っていく。
	⑦学力の向上、体力の向上についての取組み	高学年で実施される学力調査の結果分析を全職員で行い、本校の学力向上の取組の成果を検証するとともに、児童の学力改善に向けて今後付けたい力や養いたい態度などについて考察する機会をもっている。体力の向上については、広い運動場という恵まれ環境を最大限に生かし、外遊びを推奨したり、なわとび体操の取組を充実させたりして、体を動かすことの楽しさを味わわせている。	2.8		・令和5年度も、昨年度同様、学力調査の結果分析の機会を本校の児童の状況把握、学力課題並びに授業改善についての検討の機会と捉え、職員研修に位置付けるとともに、2学期以降の教育活動に活かせるようにしていく。体力調査の結果も同様である。
「人がつながり学校」ともに創る	学校評議員会との取組みの違い	今年度は学校運営協議会の立ち上げの年であったため、協議会の趣旨や学校運営方針をご理解いただいたり、具体的な授業改善の取組等を知っていただくことで精一杯だった。今後は、学校の直面する課題の解決に向けて、ご意見をいただいたり、ご支援をいただいたり、協議会の良さを生かしていきたいと考えている。	2.9		・今年度は、学校運営協議会の発足だけで精一杯だった感是否めない。令和5年度は、地域と学校の協働活動の具体的な内容検討も実施できるよう、年間計画を立てていく。
	育てたい子供の姿の共有	年3回の学校運営協議会の機会に、委員の皆様には教室訪問をしていただき、育てたい子供の姿に向けて各学年で具体的に取り組んでいる様子を実際に観ていただき、共有していただいた。	3.1		・ホームページ、学校だより、行事等を通して、運営協議会やPTA会議の場を通して等、あらゆる機会を積極的に捉え、共有していただけるように努力していく。
	親しみやすい学校づくり	地域の防災訓練やとんどが行われる「ニューイヤーフェスタ」や自治会の総会など、地域の拠点として、学校施設を利用していただくことで、地域住民にとって親しみのある学校となるよう期待している。	3.0	・最近のビオトープが寂しい気がする。折角の施設なので、さらに整備して四季の移ろいを感じられるようにすれば、子供たちの情操教育にも役立つのではないかと。学校で対応できれば、ボランティアを募ることも考えられるので、共に考えていきたい。	・コロナの影響も織りこみ、今後は地域行事も少しずつ再開されると思われる。学校施設を地域の拠点として利用していただくことについては、これまで同様前向きな姿勢でいる。ビオトープについては、地域企業エスベック(株)のご協力を得て高学年児童が総合的な学習の一環で取組を始めたところである。地域にとっての憩いの場にもなるよう、整備を進めていきたいと考えている。
	子供を育む活動	PTA活動の一環で、保護者に教育活動に参加していただく「親子学習」の機会があったが、コロナ以降途絶えている。児童の登校時の交通安全を見守る活動は、地域のボランティアにお世話になっている。また、校外のくらしの見守り活動も定期的にPTAを主とした保護者が行っている。	3.2	・下校時や放課後は、住民が散歩や買い物の際に、子供たちの見守りを心がけている。「お帰り」と声をかけると、「ただいま」と返事してくれたり、「こんにちは」と元気にあいさつしてくれる子が多い。 ・コロナ前に実施していた「いのちの授業」など、途絶えているものがあり、様子を見て復活させたい。	・PTA活動の見直しもあり、従来の親子学習については活動計画は立っていないが、学校運営協議会では、地域と学校による子供を育てる協働活動の具体的な検討を進めていく。